

第2期横浜市依存症対策地域支援計画素案に係る パブリックコメントの結果概要について

1	趣旨	2
2	実施概要	2
3	実施結果	3
4	主な意見	4
5	策定スケジュール（予定）	6
別紙 いただいた意見及び対応分類一覧		

1 趣旨

令和8年度から令和12年度までの5年間を計画期間とする第2期横浜市依存症対策地域支援計画素案に係るパブリックコメントを実施しましたので、その実施概要や主な意見等について、御報告します。

2 実施概要

(1) 実施期間

令和7年10月14日から令和7年11月13日まで

(2) 周知方法

ア 素案の配布（素案冊子 425部、概要版 2,264部）

市役所、区役所、子育て支援拠点、地域ケアプラザ等

イ 広報

市ウェブサイト、広報よこはま、横浜市公式LINE・X

3 実施結果



(1) 意見総数

208件

(2) 提出方法の内訳

電子申請 194件

電子メール 3件

郵送 11件

(3) 意見の内容

素案全体	92件
第1章 計画の概要	18件
第2章 本市における依存症に関する状況と課題	22件
第3章 計画の目指すもの	12件
第4章 取り組むべき施策	57件
第5章 計画の推進体制	3件
その他	4件
合計	208件

4 主な意見

(1) 意見を踏まえ原案に反映するもの<28件>

- ・家族が早期に問題に気付いて支援等につながることが大切だと思っている。素案では簡単な説明のみとなっているが、「なぜ家族にも支援や回復が必要なのか」を家族や支援者が理解できるよう、もう少し具体的な説明を盛り込んでほしい。
- ・依存症対策と「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」は、相談できる仕組みや障害理解促進の仕組み等、共通する部分が多いので、連携を視野に入れることが必要だと思う。
- ・アルコールや薬物等による酸や食生活の乱れから歯がボロボロになる人が非常に多く、歯と口の健康には大きな関わりがある。計画に歯科に関することを記載しても良いかと思う。

(2) 意見の趣旨が素案に含まれているもの又は素案に賛同いただいたもの<76件>

- ・当事者や家族が安心して相談できる窓口の充実と周知、家族会や自助グループへの継続的な支援をお願いする。
- ・素案をみて、回復のための支援がこんなにあるのだと初めて知った。ニュースやテレビ番組をみても、そのあたりは取り上げられておらず、SNSのコメントをみても偏見もあるのだと感じる。もっと正しい知識を行政から発信していくといいのではないか。

(3) 今後の検討の参考とさせていただくもの<60件>

- ・依存症単独での啓発だけでなく、災害や自殺、青少年向けなど他分野のイベント等とコラボしたり、地域イベントに依存症ブースを設置するなどして、啓発の機会や幅を広げていくよいのではないかと感じる。
- ・自身のプライベートな話も含めて、安心して相談等できる場所が少ないという現状があると思う。そういう方たちも気軽に相談等できるよう、依存症相談拠点でオンライン相談などを実施してほしい。

(4) その他（質問・感想等）<44件>

- ・ゲームそのものをそこまで問題視することには疑問がある。特にゲームやネットで「ゼロ・トレランス（完全排除）」は不要かつ有害であるという認識で良いと思う。結論としてゲームの記述は不要と思う。
- ・違法なサイトへのブロッキングシステムの確立が重要であり、これ以上被害者を生まない社会を作っていくかなければならないと考える。こうした対策を是非お願いしたい。

5 策定スケジュール（予定）

時期	内容
令和7年12月～ 令和8年1月	原案の検討・作成
令和8年2月	常任委員会（計画原案）
令和8年3月	計画策定

いただいた意見及び対応分類一覧

番号	意見の内容	意見	対応分類
1	素案全体	良いと思うことは、1対象が、アルコール・薬物・ギャンブルに加え、オンラインギャンブルや市販薬・処方薬の過剰摂取、ゲーム依存など新たな依存症にも対応している。2本人だけでなく家族も含めた支援を重視し、医療・福祉・地域団体の連携を強化するなどの支援体制。3依存症は誰でもなり得る病気、という理解を広め、偏見を減らすことを明確に打ち出し、普及啓発を強化している。4学校や地域ケアプラザ、一般医療機関など身近な場から専門支援につなげる仕組みを重視し、早期発見、支援を考えている。	包含・賛同
2	素案全体	啓発、連携強化といった抽象的な表現が多く、数値目標や成果指標が乏しい。実効性の担保は？	参考
3	素案全体	支援機関や専門人材の不足が課題とされているが、具体的な増員策や財源確保の道筋が明確でない。	参考
4	素案全体	区ごとの相談体制や支援資源に差があるが、均一化の方策が十分に示されていない。横浜市アルアルだが、地域格差の対応は？新しい依存症への対応が追いつかず不透明	参考
5	素案全体	オンラインギャンブルやゲーム依存は急速に変化しており、計画の柔軟性が問われるが、新しい依存症への対応が追いつかず	包含・賛同
6	素案全体	家族会やピアサポートの重要性は触れられているが、支援拡充の具体策が弱い。家族支援が具体的でないと、まずうまくいかないのでは？	反映
7	素案全体	私の息子はギャンブル依存症です。当初、私たち家族は正しい知識を持たず、間違った対応をしてしまい、その結果、息子の問題をさらに悪化させてしまいました。しかし、家族としての正しい関わり方を学び、支援につながる中で、息子を回復施設へつなげることができました。私は、依存症の回復の鍵は「家族の対応」にあると強く感じています。ぜひとも私たち家族の体験談を話させていただける場を多く設けて欲しいです。そして悩んでいる家族には家族会など専門の支援につなげていただけたらと思います。	反映
8	素案全体	最近では小学生がオンラインカジノを利用していたという報道もありました。今後は、小中学生の段階からギャンブルや依存に関する「予防教育」を積極的に進めていただきたいと願っています	包含・賛同

番号	意見の内容	意見	対応分類
9	素案全体	<p>全体の構成は、おそらく問題はないのだと思う。ただ結論としては「ゲーム行動症」という言葉を無くした方が良いと感じる。まずゲームという言葉に含まれる範囲が広すぎ、また何が問題なのか不明瞭である。そしてアルコールや薬物依存に対する偏見が十分に解消されないまま、「ゲームも依存です」と言うことは、「ゲームは明らかに違う」という、当然の批判を生んで当たり前である。結果的に偏見解消のための計画が、より偏見と対立を広めてしまう可能性が高く、むしろアルコールや薬物依存への誤解が解けないどころか「あいつらとは違う」という排除につながってしまうと思うし、事実として、ゲームそのものをそこまで問題視することには疑問がある。</p> <p>第一章の引用</p> <ul style="list-style-type: none"> — 依存症とは、アルコールや薬物などの物質の使用や、ギャンブル等やゲームなどの行為を繰り返すことによって 脳の状態が変化し、日常生活や健康に問題が生じているにもかかわらず、「やめたくても、やめられない」状態を指します。 — 個々の「ゲーム」と言われるコンテンツは、この説明でイメージできる内容を大きく越えている。 <p>たとえばソニーは社名に「コンピュータ・エンタテイメント」「インターラクティブ・エンタテインメント」という、コンピュータによる娛樂を意味する名前を提案している。家族でマリオのパーティーゲームを遊んでいるような安全な状況も多く、また小島秀夫のメタルギアソリッドのように「反戦・反核」を掲げ、トラウマなどの深いテーマ性を掲げるゲームも存在しており、それは映画や読書、音楽などを楽しむのと基本的に変わらない。こうした体験が子どもでも安全にできる「ゲーム自体」を排除することは、子どもの将来にとってもマイナスになり、国際競争についていけなくなると思う。</p> <p>ゲームは狭い意味で心身を刺激する道具ではなく、あくまで1つのメディアである。それが研究と治療的介入のみをしている依存症専門医には見えないのだろうか？かつての稻村博医師の「不登校を放置したら無気力症になる」と発言して非難された問題があつたが、現状での「早期発見」に不安と、歴史の忘却を感じる。</p> <p>神奈川でも、入所者に訴えられた「ひきこもりの民間引き出し業者」などは、安易に「デジタル依存」という概念を使って、入所者がスマートホンで外に連絡することを不可能にしていたが、むしろ「今のゲーム行動症さえ、ちょっと遊べば依存に繋がる」という定義ではないことや、ゲームプレイが重度の被害をもたらさないことこそ、啓発すべきである。</p> <p>もちろん、いわゆる「ギャンブル要素」として、一部のスマートゲームの「基本無料で、上限のないガチャ」のような設計が、予想を超える出費などを起こすことや、SNSでも友人や安心できるコミュニティでの関わりではなく、「強い不快感を覚える暴言」に接しないような、それこそ相談しやすくすることは必要だろう。</p> <p>それについては、依存症界の言葉を使えば「ハームリダクション(危険を最小化する)」が適切であり、特にゲームやネットで「ゼロ・トレランス(完全排除)」は不要かつ有害であるという認識で良いと思う。</p> <p>むしろハームリダクションと福祉で、ほとんどの事例は解決するのではないか。またゲームというものは「ガチャ」の側面だけで高額なメディアと思われがちだが、むしろコストパフォーマンスの良いメディアであり、単一の要素では語れない。(8000円で250時間遊べるゲームを1年半遊べば、1日の娯楽への出費は数十円になる)</p> <p>全体として「計画の対象」の部分も、医療化を避けて、主に福祉や市民活動、ゲームなどを有害化しない書き方のほうが、個々人の困りごとに 対応できると思う。</p> <p>また — ゲームやSNS等の依存症は、認知度が比較的低く — あるが、一般市民の感覚で実感がないまま、概念が広がっていることにこそ問題があり、過剰な問題化について、そのようなことではないと啓発する方が大事だろう。</p> <p>実態と異なる「デジタル恐怖症」を広めることは、例えば不登校の原因をゲームやSNSのみに求めるような「歪んだメガネ」を作る。それは先ほど書いた通り、民間の質の低い問題業者を利用するものになる。</p> <p>この計画自体が「ゲームやネットと、ユーザーへの偏見を広める危険性」を考え、ただ医療者の言うままでしない方が良い。</p> <p>なお旭川のいじめ自殺事件のように、14歳の被害者がSNS発信という形で残した言葉が、重要なじめの証拠になった事例もある。もしもSNSが無ければ、ただ単に発信ができなくなるだけだろう。</p> <p>結論ありきではなく熟議が必要な分野であり、現段階で「依存症」の対象として扱うには前のめりすぎる。「啓発をすることは、偏見をなくすこと」それを大事にしてほしい。</p> <p>結論としてゲームの記述は不要と思う。</p>	その他

番号	意見の内容	意見	対応分類
10	素案全体	依存症というくくりの中で特に薬物、違法薬物に関しての法的処置と治療へ向けた取り組みについて率直な意見交換ができたら面白いかと。正しい、間違っている、その中間に位置するという多様性を尊重する中で。刑罰に処される依存症とそうでないものとに分かれるのであれば、依存症治療に向けた取り組みや依存症そのものの捉え方自体に疑問を持つてしまう。	包含・賛同
11	素案全体	オンラインカジノが蔓延する中横浜市では低年齢の児童までが巻き込まれました。それを阻止するには、学校教育で依存性のことを指導していただきたいです。	包含・賛同
12	素案全体	仕事依存症の横浜市職員はいませんか。仕事依存症の職員向けの対策は何が行われていますか。時間外労働に対して正確に把握して時間外手当を支払っていますか。	その他
13	素案全体	仕事依存症の横浜市職員はいませんか。仕事依存症の職員向けの対策は何が行われていますか。土日祝日やゴールデンウィークなどの大型連休に市庁舎に入って行く職員が大勢いらっしゃいますが、仕事依存症ですか。それとも仕事が多いのですか。時間外労働に対して正確に把握して時間外手当を支払っていますか。	その他
14	素案全体	ゴールデンウィークなどの大型連休や土日祝日に市庁舎の3階のゲートから入って行く職員が大勢いらっしゃいますが仕事依存症ですか。それとも仕事が多いのですか。時間外労働に対して正確に把握して時間外手当を支払っていますか。	その他
15	素案全体	ゴールデンウィークなどの大型連休や土日祝日に市庁舎の3階のゲートから入って行く職員が大勢いらっしゃいますが仕事依存症ですか。それとも仕事が多いのですか。仕事依存症なら何か対策されていますか。仕事が多いなら何か対策されていますか。具体的な対策を教えてください。時間外労働に対して正確に把握して時間外手当を支払っていますか。教えてください。国家公務員が行ったように残業代金未払いの調査をして公表してください。	その他
16	素案全体	アルコール依存症はアルコールによる酸、飲酒後の嘔吐による酸、食生活の乱れから歯がボロボロになる人が非常に多く、歯とお口の健康は所得格差が如実にあらわれ、依存症の背景となる貧困も歯とお口の健康に大きな関わりがあります。計画あるいはコラム欄に歯科に関する記載をしても良いかと思います。薬物依存症については、トルエンや覚醒剤は酸によって歯が溶けてボロボロになる酸蝕症と同様の症状があらわれ、覚醒剤は副作用による強い歯ぎしりや食いしばりで歯が大きく削れたり欠けたりします。また、薬物の気分の高揚で歯を磨かなくなったり、清涼飲料水やアルコール摂取が多くなる傾向があります。これらにより口腔が崩壊する者も多いため、歯科からの何らかの支援が必要かと思います。歯科医院は定期的に通院する者が多いため、また身近なかかりつけ医として健康に関する相談がしやすいため、依存症に関する啓発活動をおこなう施設として含めるべき。	反映
17	素案全体	依存症は本人は基より、家族、友人、職場、学校等、本人を取り巻く全ての人を巻き込んでいく病気です。一次予防(数年前厚労省が掲げた)も大切ですが、依存症に罹患してしまった人への回復に向けた支援としてハームリダクション的な取り組がHP等では中心となっていますが、我国において、その取組が適しているのか？疑問を感じるところがあります。それは死亡してしまうケースが変わらずいるという事です。本人への動機付けが進み、回復に導びく取り組を再考する必要性があるのを思います。	包含・賛同
18	素案全体	「ゲーム」は依存ではなく「ゲーム行動症」というのですね。ゲームだけ分けているのは何か理由があるのでしょうか？	反映

番号	意見の内容	意見	対応分類
19	素案全体	いま横浜区役所で依存症啓発パネルが展示されていますが、正直なところ「アルコール・薬物・ギャンブル・ゲーム」というパネルに無理がありすぎる。とくにゲームはICD11でもDSMでも、かなり留保条件があるにも関わらず、まったくそれが抜けている。「ゲームをやるから成績が落ちる」というような、たんにその時間勉強していないだけのことで依存症と言うのはバカバカしい。勉強以外してはならないのか？ほんとうにアルコールや薬物のような有害性があるというなら、たとえば2時間ゲームをしたために、2時間ほかの娯楽をした場合よりも負の影響や、明らかな健康被害が出ていないとならないか、そのようなものは全くない。むしろSwitchの運動ゲームなら健康になり、内容によっては勉強になるぐらいでは？また、ギャンブル依存=お金を盗むという説明は、あまりにひどすぎないか？人権を無視している誹謗中傷で、すくなくとも依存症啓発ではない。今回の啓発期間はあくまでアルコールの問題だったはずだが、このようなものが入ってしまっている。また、啓発で大事なのは依存症者への目線を変えることであり「ダメ・ゼッタイ！」「なったら終わり」の印象を変えることに力を注ぐべき。それをアルコールと薬物という確立された分野で、しっかり偏見を解くことを優先して「依存症」のイメージを変えることこそ先に取り組むことではないか？本来ハームリダクションなどで行っていたのは、そういうことだったはず。つまり「依存症対策」をしたいのなら、このようなゲーム悪玉論と依存症への偏見を組み合わせたやり方では無理であり、市民の困惑と疑問を生むだけ。むしろアルコールや薬物へのハードルを下げる懸念すらあるので、再考してほしい。	その他
20	素案全体	素案をみて、回復のための支援がこんなにあるのだと初めて知りました。依存に関するニュースやテレビ番組をみても、そのあたりは取り上げられておらず、SNSのコメントをみても 偏見もあるのだと感じます。もっと正しい知識を行政から発信していくといいのではないか？	包含・賛同
21	素案全体	オンラインギャンブルのカテゴリに入るかわかりませんが、スマートフォンからゲーム感覚で課金を止められなくさせるビジネスについて、規制などがあつてほしいと思っています。ポケモンカードなど、レアなものが当選する可能性があると歌って、少額からお金をサイトのコインに変換させて、はまらせていくビジネスが横行しているようです。もちろん規制などは、市の対応としては難しいのでしょうか、こんなビジネスにひつかって課金行動に依存しないようにというような、インターネット広告を出してほしいなと思っています。	参考
22	素案全体	ワーカーホリックの人は仕事依存症ですか。残業代金は適法に横浜市では支払われていますか。残業代金未払いが発生していないか、国や他都市同様に調査して公表してください。	その他
23	素案全体	ワーカーホリックの人は仕事依存症ですか。残業代金は適法に横浜市では支払われていますか。残業代金未払いが発生していないか、国や他都市同様に調査して公表してください。 残業時間をどの様に正確に把握して、残業代金未払いが発生しない対策をどの様にようとしているか教えてください。	その他
24	素案全体	仕事依存症の人には支援も対策もされないのでですか。本支援計画に仕事依存症だと思われる人に対する支援などが無い理由を教えてください。	その他
25	素案全体	仕事依存症の人もいらっしゃると思いますが、対象外ですか。見て見ぬふりですか。仕事依存症だと思われる人には何も支援も対策もしないのですか。仕事依存症の人が含まれていない理由を教えてください。	その他
26	素案全体	ギャンブル依存にしろ薬物依存にしろ若年層の広がりが増えている現状をなんとか食い止めて頂きたいです スピーディーな対策の実施をせつにお願い致します	包含・賛同
27	素案全体	ギャンブル依存症の当事者、家族が孤立しないよう、公共の場でもっと支援対策が必要。相談出来ない、ギャンブル依存症の知識がない、病気であるにもかかわらず社会からの偏見を持たれやすいなど問題点は沢山ある。若年齢化が進み、予防教育も重要。	包含・賛同
28	素案全体	近年、ギャンブル依存による犯罪の増加やオンラインカジノなどの低年齢化などの増加を目にします。知らず知らずのうちに罹患してしまう病気です。本人だけでなく家族も巻き込みます。予防教育の強化を早急にお願いしたいです。また、相談して来た方への適切な対応をお願いしたいです	包含・賛同

番号	意見の内容	意見	対応分類
29	素案全体	ギャンブル依存は「家族が被害を受ける依存症」とも言われるほど影響が深刻です。素案にも家族支援が位置づけられていますが、実際には家族が孤立し、経済的・精神的に疲弊してから相談に至るケースが多いです。そのため、家族向け講座・ピアグループ支援・経済的アドバイス(債務整理や家計再建支援)など、家族支援を実質的に強化してほしいです。	反映
30	素案全体	若者のオンラインカジノが問題になっている今 早い段階でのギャンブル依存症リスクの啓発が必要だと強く感じています。	包含・賛同
31	素案全体	ギャンブル依存症が拡大していると強く感じています。特に若年層のギャンブルを興味本位でやったことから依存症へとなり多額の借金そして闇バイトなどの犯罪に、見過ごしてはならないと思います。せめて高校生からの啓発が、必要です。授業でもつとギャンブル依存症の啓発をやり、興味のある方スポーツ選手を廣告塔にしたりして煽らないで欲しいです。何よりギャンブルの事業者のもっと責任を持って欲しいです。依存症にならないようにする努力、啓発も一緒にやるべきだしもっと利益からお金を使う必要があると思います。そういうかことすべて盛り込んで欲しいです。	参考
32	素案全体	依存対策は本人の問題ではなく社会全体の課題だと思います。支援について横浜市に要望します。早期発見と予防の体制強化 先日も小6からオンラインカジノで「常習赌博」700万も賭けていた事件が神奈川がありました。危機を感じる事件と感じました。学校教育、地域活動、企業などあらゆる場で早急にギャンブル依存症の正しい理解と予防教育を推進してください。	参考
33	素案全体	相談、支援体制の充実 当事者、家族が安心して相談できる専門窓口の拡充と家族が孤立せず支援できるよう家族会、自助グループへの助成と情報提供を継続、拡大、医療、回復支援体制の整備も必要です。	包含・賛同
34	素案全体	依存症専門機関の拡充、医療従事者への依存症対応研修の充実を要望します。	参考
35	素案全体	当事者、家族、行政、専門職が一体となることを目指して頂きたいです。	包含・賛同
36	素案全体	私はギャンブル依存症について困った時に真っ先に地域の相談機関を訪れました。相談すれば助けてくださると信じていたからです。知識を持った方が丁寧に話を聞いてください、適切な民間の団体に繋げていただければ、もっと早く治療に向かえたと思います。どうかギャンブル依存症専門の窓口を設けていただき、●●●及び●●●との連携を深めていただきたいと思います。悩み苦しんでいる若者が増えています。どうか1人でも多くの若者を手助けしていただけますようお願いいたします。	参考
37	素案全体	依存症の家族が、安心して相談できる環境作りが大切だと思います。	包含・賛同
38	素案全体	年々、低年齢化かつ深刻になっているゲームおよびギャンブル依存性の対策として、公立校における啓発教育をしていただきたい。まずは教職に着く方々に事態の深刻さを是非知ってほしい。	参考
39	素案全体	依存症に対する様々な対策・支援策を進めて下さりありがとうございます。家族がギャンブル依存の問題を抱えていますが私自身無知から本人の気持ちの問題、意志で辞められるはずと思っており脳の病気との認識はありませんでした。世間一般の目も自業自得、だらしない人という印象を持たれていますので相談する事も出来ず長年孤立し解決策が分からぬまま苦しんできました。今はギャンブルの種類も足を運ばなくともスマホで24時間出来てしまい賭ける額も大きくなつて結果大きな借金を抱えて闇バイトや凶悪犯罪に手を染めるケースも多く耳にするようになりました。また若年化してきている為早期の予防教育の必要性と困っている依存症当事者と家族が繋がれる場所の周知が必要急務だと思います。ぜひ活発な計画の推進をお願い致します。	包含・賛同
40	素案全体	*図表5-1「依存性の本人等の支援者と期待される役割」を見てもわかるように、本人も家族も始めに助けを求めて繋がるところは、信頼性のある行政や病院である。そして最終的に回復や治療へ最後まで関わり元気になって再出発させ世の中に送り出していく役割を実践しているのは、民間支援団体や医療である。全ての機関の連携がなければ、回復は難しい。この実態を把握して、行政主導で連携を本気でとりくんではほしい。横浜市だけで解決できる問題ではないからこそ、神奈川県への対策必須の呼びかけや、国への働きかけを、ぜひ横浜市が発信者となって行動を起こして欲しいです。*依存性は本人も苦悩の日々ですが、家族も地獄です。病気とWHOで認められていても、世間ではまったく知られないのが現状です。だから気づくのも遅くなり、気づいても恥かしくて誰にも言えない市民が沢山いる事をわかって欲しいです。こんな病気があるという周知、自助グループや回復施設で回復できる病気だという希望、回復して今幸せに暮らしている人がいる事を伝えたいです。	参考

番号	意見の内容	意見	対応分類
41	素案全体	依存症は10年単位の寄り添いが必要です。行政は長期にわたる支援には不向きです。 ●●●や家族会といった機関にもっと財政的な支援をする方が効果的です。「広報」と「後方」の支援を拡充しないとどんな立派な計画を作っても絵に描いた餅です。	参考
42	素案全体	近年、未成年によるオンラインカジノ利用や摘発が相次いでおり、青少年の健全育成の観点から深刻な問題となっています。先月10月8日付で日経新聞で報じられている通り、横浜市の大学生ら10代の3人が、違法なオンラインカジノを使う客に対し、暗号資産(仮想通貨)を無登録で交換したとして摘発されており、横浜市での対策も急務だと考えています。市として、国の法改正や警察の取締りに加え、地域レベルでの実効的な対策を進めていただきたいです。具体的には、学校や保護者向けの啓発、SNSや動画を活用した若者への情報発信、市広報による注意喚起の強化、また、PTAや地域団体、金融機関、通信事業者などと連携し、未成年が違法サイトへアクセスしにくい環境づくりを推進することを求めます。さらに、保健センターや青少年相談センターに専用の相談窓口を設け、早期発見と支援につなげて欲しいです。市として啓発・支援・連携の三本柱で、若者を違法ギャンブルから守る体制整備を要望します。青少年育成条例やガイドラインに「オンラインギャンブル等の防止」を明記し、地域としての姿勢を明確にすることも検討いただきたいです。	参考
43	素案全体	横浜市の「依存症個別相談(来所・電話)※個人情報や相談内容などの秘密は厳守します」(https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/kokoro/izonsho/sodan/20171120171434.html)のページの下方に記載されている以下のページのリンクが切れているので、整備をお願いします。「健康福祉局障害福祉保健部こころの健康相談センター※相談窓口は【こころの健康に関するご相談】(内部リンク)へ。」(https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/kokoro/kokorosoudan/20190319soudanmado.html)	その他
44	素案全体	精神科医療機関への周知も必要だと思います。ギャンブル依存症者は死に至る病気です。医療機関にギャンブル依存症者の受け入れに協力いただきたいです。	参考
45	素案全体	素案内容は良好です 先日、横浜市指定厚生施設での死亡事故がありました 施設に対し、患者への安全安心が確保される為の 具体的な監視、指導の強化が重要と感じます 是非対応をお願い致します	その他
46	素案全体	息子がギャンブル依存症患者として、入院治療を経て復職しました。スマホというツールで24時間依存出来てしまう現在、若年層にまで拡がる不安。早急の対策をお願い致します。	包含・賛同
47	素案全体	ギャンブル依存症は完治はしない病気なので、予防教育が大変重要だと思います。またなってしまった時に適切な治療が受けられ、社会復帰できる体制が整う事を願います。	包含・賛同
48	素案全体	先日、友人のパートナーが亡くなられ、話を聞いていると全て依存症に当てはまります。もう一人の友人は息子さんの問題を話し始め、沢山の借金の肩代わりをしたと話していました。間違いなくギャンブル依存症です。でも2人ともそこには疑いの目を持つて居ません。性格の問題、人間性の問題と話していました。私はこんなに身近に苦しみ悩んで居る人が居ると思うと本当に驚きました。ギャンブル依存症は病気と言うこと、この現状を広く国民に知って欲しいです。そして対策を急いで下さい。お願ひします。	包含・賛同
49	素案全体	一刻も早く依存症の実態を国民の多くの方に知って頂けるよう、対策と共に進めていただきたいです。お願ひします。	包含・賛同
50	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、以下のとおり意見する。【意見趣旨】●●●は、本計画案に賛成する。	包含・賛同

番号	意見の内容	意見	対応分類
51	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、依存症問題に関する支援の更なる充実を求め以下の通り意見する。【意見の詳細】第1本計画案全体に対する意見 1 依存症者へのアプローチについて 1)依存症の背景には、貧困や失業など、さまざま「生きづらさ」の問題が複合的に存在している。依存症者の債務問題やその他の法的課題に対応するための無料相談窓口を各自治体等で設置し、各種専門家による連携体制を整備することが重要である。依存症者の債務整理事案には「依存症の治療が先か、債務整理が先か」という難しい選択に直面することが多く、依存症が進行中の状態で債務整理を行なっても本当に意味があるのか、また依存症治療には長い時間がかかるものの一時的な落ち着きは得られるのかなどといったジレンマが存在する。法的専門家のみならず各種専門家が連携して支援を行うことで、複眼的視点に基づく支援を行うことができ依存症者の回復への第一歩を踏み出すことができる。	包含・賛同
52	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、依存症問題に関する支援の更なる充実を求め以下の通り意見する。【意見の詳細】第1本計画案全体に対する意見 1 依存症者へのアプローチについて 2)依存症治療には長い時間がかかるため、長期的な支援が必要である。そのための定期的な依存症支援プログラムの実施が重要である。具体的には、依存症者に対するカウンセリングやグループセラピーなど依存症からの回復を支援するプログラムの実施といった施策が考えられる。	包含・賛同
53	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、依存症問題に関する支援の更なる充実を求め以下の通り意見する。【意見の詳細】第1本計画案全体に対する意見 1 依存症者へのアプローチについて 3)依存症者は、問題行動を「やめたいと思わない」「やめたくても、やめられない」という心理状態にあることから、上記、依存症支援プログラムのような心理的な支援策に加え、例えば、ギャンブル依存対策として①本人や家族の申告による公営競技に対する入場制限や公営競技のインターネット投票の利用停止措置(アクセス制限)、②公営競技のインターネット投票サイトにおける購入制限を視覚的に示す表示方法を取り入れること、③公営競技場や場外販売所からATMを撤去するなど、物理的に「のめり込みを防止する」ための施策を講じることも必要である。	その他
54	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、依存症問題に関する支援の更なる充実を求め以下の通り意見する。【意見の詳細】第1本計画案全体に対する意見 2 啓発活動の強化について 依存症の本人に対する偏見やステигマ(セルフステイグマも含む)の問題も根強いことから、依存症に関する理解を高めるため、本計画案のとおり、地域において啓発活動を実施することが重要である。具体的には、研修会やセミナー、講演会、法教育、シンポジウムなどを通じて依存症についての正しい情報を収集・拡散し、適切に支援ができる環境を整備するなど、社会全体の理解を促進する活動への取り組みが必要である。	包含・賛同
55	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、依存症問題に関する支援の更なる充実を求め以下の通り意見する。【意見の詳細】第1本計画案全体に対する意見 3 ネットワークの構築について 包括的な支援体制を築くためには、地域内の支援者や支援団体との連携を強化し、ネットワークの構築が必要である。例えば、研修会やセミナーなどに専任の講師を招き、具体的な実践事例を紹介する機会を設け、他の支援者との意見交換やネットワーク形成を進めることが重要である。	包含・賛同

番号	意見の内容	意見	対応分類
56	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、依存症問題に関する支援の更なる充実を求め以下の通り意見する。【意見の詳細】第1本計画案全体に対する意見 4 依存症者およびその家族の声を取り入れた施策の実施について実際に支援を受けた方々の意見が施策に反映されるよう、フィードバックを集めの仕組みを導入することも重要である。例えば、依存者やその家族、支援者(医療機関、民間支援団体や自助グループ等)に対する定期的または随時にアンケートを実施し、支援内容やサービスの満足度、必要だと感じる支援についての意見を収集する必要がある。フィードバックを集めの仕組みを導入することで、依存症者やその家族、支援者などからの意見や要望を効果的に収集することができる。また、本計画案にも明記されている通り「依存症からの回復過程において、家族等が担う役割や支援も重要」であり、フィードバックの収集は結果として「民間支援団体や関係機関と連携し、依存症の本人の家族等のニーズに応じた多様な支援の提供を推進」することに資することとなる。	包含・賛同
57	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、依存症問題に関する支援の更なる充実を求め以下の通り意見する。【意見の詳細】第1本計画案全体に対する意見 5 メンタルヘルスに関する取組 依存症者には孤独の問題や家庭問題などを抱えている方も多い。最近も歌舞伎町ビルで市販薬乱用者と思われる中学生の転落死が報道されたように、自殺につながる事案もあり、依存症に起因する「生きづらさ」が自死の大きな要因となることを踏まえ、本計画案における二次支援「本人への取組」としての、こころの電話相談などの対応に加え、メンタルヘルス相談へのアクセス向上を含めた施策の強化が必要である。	参考
58	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、依存症問題に関する支援の更なる充実を求め以下の通り意見する。【意見の詳細】第1本計画案全体に対する意見 6 姉妹都市および友好都市との交流を通じた知見の集積への取り組み 横浜市は、8つの都市と姉妹・友好都市提携をしているところ、依存症対策については各国・各地域において異なる状況とそれに対応した独自の取り組みが存在している。これら姉妹・友好都市との交流の一環として、各都市の公的機関内及び民間団体の取り組みの成果を相互に共有し、各国の依存症の現状についての国際比較並びに対策等についての知見を集積することにより、我が国の状況を多角的な視点から捉えることが可能となり、また、対策の有効性の検証がより高精度なものとなる。	参考
59	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、依存症問題に関する支援の更なる充実を求め以下の通り意見する。【意見の詳細】第2本計画案(第1章から第4章)に対応する意見 1 「第1章 計画の概要」について 依存症からの回復には、単に依存対象から離れるだけでなく、その後の生活の再建が不可欠である。本計画案の目的に、住居、就労、経済的自立といった生活の再建に向けた計画を明確に位置づけるよう求める。また、依存症は、個人の精神状態や社会生活を蝕む進行性の病気であり、様々な「生きづらさの問題」が複合的に絡み合い、それが自死のリスクを高めることになるため、本計画案に、自死予防の視点を取り入れることが重要である。例えば自死リスクの高い当事者に対する早期介入や、関係機関との連携による支援が必要である。	参考
60	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、依存症問題に関する支援の更なる充実を求め以下の通り意見する。【意見の詳細】第2本計画案(第1章から第4章)に対応する意見 2 「第2章 本市における依存症に関する状況と課題」について 依存症に起因する「生きづらさ」が自死のリスクを高めると認識したうえで、根本的な課題解決に向けたアプローチへの試みが必要である。依存症当事者やその家族における経済的困窮の実態について、詳細なデータに基づいた分析を行い、具体的な支援についてのニーズの把握が必要である。本計画案においては「こころの健康相談センター」を依存症相談拠点と位置づけていることから、依存症と自死の関連性についても状況の把握・分析、評価を行い、具体的な施策に反映する必要がある。	参考

番号	意見の内容	意見	対応分類
61	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、依存症問題に関する支援の更なる充実を求め以下の通り意見する。【意見の詳細】第2本計画案(第1章から第4章)に対応する意見 3 「第3章 計画の目指すもの」について依存症の背景には「貧困、失業」といった問題が存することも多い。住居確保、就労支援、経済的支援、社会参加促進など、生活の再建に向けた具体的なプログラムや、かかる問題に対する取り組みも、依存症対策・支援の一環として計画に盛り込むことを求める。特に就労支援においては企業などに対し、依存症に対する理解を深める働きかけや就労継続のためのサポート体制を充実することが必要である。依存症当事者やその家族への相談支援においては、こどもへの影響にも十分に配慮が必要である。子育て世代への支援として、ペアレントトレーニングやこども向けの心理教育プログラムの導入等も必要である。	参考
62	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、依存症問題に関する支援の更なる充実を求め以下の通り意見する。【意見の詳細】第2 本計画案(第1章から第4章)に対応する意見 4 「第4章 取り組むべき施策」について 以下の部分の強化・具体化を求める。1)「一次支援(予防・普及啓発)にかかる取組」について「(2)こどもに向けた取組」についてこどもがゲーム依存や市販薬濫用に陥る要因として親(保護者)の無関心や家庭内の問題もあるため、親(保護者)に対する行政の途切れない支援や相談体制が不可欠である。特に、こどもに対するネグレクトなどに関しては、個別介入の施策も必要である。また友人や近隣の住民が依存の兆候やこどもへの影響に気づいた際に相談できる相談窓口・機関の整備が必要である。	包含・賛同
63	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、依存症問題に関する支援の更なる充実を求め以下の通り意見する。【意見の詳細】第2本計画案(第1章から第4章)に対応する意見 4 「第4章 取り組むべき施策」について以下の部分の強化・具体化を求める。1)「一次支援(予防・普及啓発)にかかる取組」について「(3)若者に向けた取組」について「大学や地域と連携し、若者自身への広報だけでなく、若者を支援する人のスキルアップを図る」との記載につき、誰がどのように支援するのか、またどのように支援者に対するスキルアップを図るのか、その具体的な内容について検討が必要である。また学生に対しても、依存症に関する授業や啓発活動の実施が可能であれば実施するのが望ましい。	参考
64	素案全体	●●●は、第2期横浜市依存症対策地域支援計画(以下「本計画案」という。)に対し、依存症問題に関する支援の更なる充実を求め以下の通り意見する。【意見の詳細】第2本計画案(第1章から第4章)に対応する意見 4 「第4章 取り組むべき施策」について以下の部分の強化・具体化を求める。2)行政の踏み込んだ施策について 一次支援から三次支援を通じて全体的に「情報発信」や「支援」といった表現が散見しているが、行政としてより踏み込んだ施策の実施が必要である。「3 三次支援(回復支援)」のうち「(2)支援者への取組」の箇所には「連携の推進に取り組んでいきます。」と記載されているところ、「民間支援団体・自助グループへの活動支援、民間支援団体等の職員の人材育成やセルフケアのための研修」に関連する取り組みについて、「連携の推進」に留まらず、行政が主導的役割を担い、複合的課題へ一体的かつ効率的に支援を行うサポートチームの組成など行うなどのより積極的な対応を求める。	参考
65	素案全体	依存症により、心身障害や生活困窮などさまざまな影響をおよぼし、犯罪にも関わってしまう恐れもあります。家族も巻き込まれて疲弊してしまうので、依存症の問題に対して正しい理解を広め、依存症の当事者や家族などが支援を受けられ、回復できる環境を是非整えていただきたいです。	包含・賛同
66	素案全体	依存症に対して、第2章の市民意識調査からも、「病気」ではなく、意志の弱さや自業自得だと思っている人の方が圧倒的に多いことが分かります。ギャンブルやゲームの依存症は、低年齢での発症も、今後ますます社会問題として深刻になっていくと思います。予防教育含め、普及啓発や回復支援にも、もっともっと力を入れていってもらいたい。	包含・賛同
67	素案全体	ギャンブル依存症になった方も支援していただくことも大切。さらに未来の若者たち、日本の宝となる人材を依存症にならないよう守るために、ギャンブル産業のCMの制限等に尽力いただきたいです。	その他

番号	意見の内容	意見	対応分類
68	素案全体	各依存症の回復の仕方が違います。ギャンブル依存症は特に家族が巻き込まれます。それゆえに家族の尻ぬぐいが一番いけないことなどやギャンブル依存症が病気という認識がなさすぎます。是非予算を各依存症ごとにつけて取組をしていただきたい。またオンラインカジノの若者を誘う広告の規制の強化とともに義務教育についての児童、生徒、保護者、教員向けに予防教育をお願いしたい。ギャンブル依存症で犯罪を犯し留置されている方への教育も病気の自覚がない当事者にも必要	参考
69	素案全体	テレビなどで公営競技やFX等のCMの放映控えるべき。スマホ1つで完結でき、賭け金も高くなる一方です。依存症当事者、家族の苦しみをわかって欲しいと思う。相談できる機関、適切なアドバイスができる人の育成に力を入れて欲しい。1次、2次、3次支援を早急に進めていただきたい。	参考
70	素案全体	ギャンブルに関してアクセスできない確実なアプリの開発をお願いします。	その他
71	素案全体	依存症を恥ずかしいと思う社会を変えて行く必要がある。恥ずかしいから隠したいと思う気持ちが、家族など近くにいる人だけで解決しようとして間違った方法をとってしまう。誰でもなる可能性があるし、回復する事もできるんだと知らせて欲しい。依存症は個人や家族だけの問題ではなく、日本経済自体にも大きなマイナスになる事を知ってもらいたい。例えばギャンブル依存症で数千万円の借金を抱えることを個人の責任だと笑うことは簡単だが、そのお金は他国に吸い上げられていて、結局は日本が貧しくなっていくことに気づいて欲しい。アルコールや薬物も含めた依存症によって、優秀な人材が失われている事も無視できない。横浜市にはこの先もカジノ誘致をやめて欲しい。	その他
72	素案全体	人が集まる場所で、依存症への啓蒙活動を敷居を高くせず行なって欲しい。民間団体とも連携する事をお願いしたい。	包含・賛同
73	素案全体	私は横浜市民であり、ギャンブル依存症の当事者家族・支援者の立場から意見します。横浜市が「ギャンブル等依存症対策」を掲げるなら、まずパチンコを実質的なギャンブルとして認めるべきです。「遊技」という名目で換金が行われている現状は、依存症の温床です。にもかかわらず、市の計画ではパチンコが曖昧に扱われ、実効性がありません。依存症で苦しむ本人や家族は、現場で確実に存在しています。	参考
74	素案全体	現実を直視し、パチンコを対策対象に明記し、広告規制・相談支援・啓発・回復支援を強化してください。また、国に対しても「パチンコをギャンブルとして扱うよう」明確に提言を求めます。形だけの対策では命が救えません。横浜市が本気で市民の健康と生活を守る姿勢を示してください。	参考
75	素案全体	素案全体的に賛成です、特にギャンブル依存症やゲームの課金がスマホで簡単に出来ることに加え、低年齢化や犯罪に進むケースが増えています、先日は小学生が700万円を使い込むというニュースが話題になりました、横浜市の取り組みを支持すると共に神奈川県全体的に取り組みを早急に進めてもらいたい。相模原市に住んでますが、相模原市は横浜市に比べて依存症対策が遅れている様に思います、かつて、カジノ反対運動が盛り上がった事も大きいと思います、将来的にもカジノを誘致する事は絶対に止めて下さい。最後にギャンブル依存症の本人や家族を民間団体が手弁当で支えている状態です、国や全国の自治体、立法府への働きかけをお願いします。	その他
76	素案全体	「依存症に苦しむ本人の家族へのケア(例:ピアサポート)が非常に重要だと考える。家族が疲弊しないよう、相談会や居場所づくりの予算と体制を強化してほしい。」	参考
77	素案全体	依存症は、病気である、回復する方法があるということを発信して欲しいです。回りの家族にも影響を及ぼすし、当事者に対する対応も一般常識からかけ離れていることを発信して欲しいです。誰でもなりうるということを子供達にしっかり伝えて欲しいです。	包含・賛同
78	素案全体	ギャンブル依存症の相談に来た当事者と家族には、引き続き、自助グループや家族会を紹介しそひ繋がって欲しい。また、他県の例を参考に、行政主導で家族会のメンバーに直接相談できる場を設け、広く周知し相談し易い環境を整えて欲しい。	反映
79	素案全体	ギャンブル依存症の若年化対策として小学生くらいから段階的に依存症のことを学ぶ予防教育の場を早急に整えて欲しい。そのためには先生がギャンブル依存症のことを学ぶ必要があり、ギャンブル依存症対策は目の前の問題だけでなく広く捉えて対策をすすめて欲しい。	参考
80	素案全体	依存症は、病気である、回復する方法があるということを発信して欲しいです。また、回りの家族に影響を及ぼすし、当事者に対する対応も一般常識からかけ離れていることを発信して欲しいです。誰でもなりうると子供達に対して早い時期から、小学生高学年でもよいと思っています、情報を伝えて欲しいです。	包含・賛同

番号	意見の内容	意見	対応分類
81	素案全体	依存症に関して、関係各所と連携し、丁寧に作られた計画だと思います。神奈川県内では小学生の頃からギャンブルを始め依存症になった事例もありました。10代から50代の働き盛りの世代が働けなくなるという、国、県、市にとって大きな損失が急速に拡大している。税収はもちろん、依存症の問題で家庭が壊れたり、築けないために出生率の低下がますます加速して、人口減少に歯止めが効かない。この計画をより良くし、実施されることを期待しております。横浜市が市町村の見本となるような実績をのこしてほしいと思っております。	包含・賛同
82	素案全体	依存症に関する正しい理解と知識を広めるためにも是非普及、啓発活動を推進して欲しい 特にオンラインカジノは、小学生でも知っている。未来の日本を支える若者達をギャンブル依存症から守る活動は急務です。	包含・賛同
83	素案全体	息子が18歳から31歳までギャンブルをし続けていました。その間親は必死に解決方法がないかと、精神病院や行政の精神衛生センターへ行って相談しましたが、中々埒が明かず右往左往の状態でした。息子が31歳の時に鬱病になり、休職せざるを得なくなって、その時●●●家族会を知りました。そこで初めてギャンブル依存性について詳しく知る機会を得ました。その会から回復施設を紹介され、息子は約3年間入寮し、去年卒寮しまして以前の会社に復職でき現在回復の道を歩んでいます。この病は一生闘わなければならず、同じように苦しんでいる当事者との繋がり大切のようです。行政機関が依存症の当事者や家族に対して門戸開放して、敏速に相談出来る場を設けていただきたいです。	包含・賛同
84	素案全体	ワーカーホリックの方々は仕事依存症ですか。横浜市役所も土日祝日含めて夜中まで執務室の電気が点いていますが、残業代金は支払われていますか。横浜市は残業代金未払いは無いのか調査されないのでしょうか。	その他
85	素案全体	「若年層への啓発を強化して将来依存症へ移行することを予防することを重点施策としつつ、依存症になってしまった方へはできるだけ早期に介入して、重症化を防ぐ」という方向性なのだと思いますが、全体を通して、若年層中心の計画という印象を受けます。全依存症・全年代を対象とする計画なのであれば、取組が若年層に偏り過ぎていないように見せる工夫ができるとよいのではないでしょうか。	反映
86	素案全体	依存症は誰でもなる可能性があるため、今後ますます増える病気だと思います。依存症を理解してもらうため、誤解や偏見をなくす事が必要。身体の病気なら心配されるのに精神の病気に努力や我慢を強いるのは、相手の立場を全く理解していないからだと感じます。どんな人でも安心して過ごせる社会を作りあげて欲しいです。依存症になるきっかけ最初の動機を阻止するために子どもの頃からの教育が必要だと感じます。	包含・賛同
87	素案全体	ゲームやスマホなど、そのものの自体は悪ではなく、ひとつのことにのめり込んでしまい生活に支障をきたすことが問題だと考える。重度な場合を除いて、「依存対象と適切な距離を保っていられるか、自分を客観視すること」ができていれば一步手前で防げる場合も多いのではないか。「自分は依存症にはならない」と思い込んでいながらも依存の自覚がないという層には動画サイトの短い広告でアプローチし、本人や家族や周りに自覚がある層には相談窓口を案内できるように、棲み分けが必要。動画は専門学校や大学の、映像や広告を学ぶ学生と連携して若者が刺さるものを作ってほしい。	反映
88	素案全体	横浜市は18区あるので、相談拠点が1か所というのは少ないと思います。依存症の回復支援の拠点となるような場所をいくつか整備してもよいのではないでしょうか。	参考
89	素案全体	死に至る可能性が高い深刻な病気という認識の共有のため、依存症の重症化による死、臓器等の健康障害の実態、依存症と自殺についての調査などを希望する。治療につながりやすい明るいイメージ、回復の強調が進む一方で、特に新しく依存症の問題に取り組む支援者や関係機関において深刻さの認識が薄まっているのを感じる。	参考
90	素案全体	検索をかけばかなり依存症の情報にたどり着きやすくなったが、支援者は業務の中で、連携会議やプログラムの開催などの情報をキャッチしづらいようだ。メールによる案内の場合は、大量に届くメールの中に埋もれてしまい情報が得られにくいという声を聞いた。	その他
91	素案全体	支援者、家族、子ども、若者向けなど、研修や授業などの場で、回復者の参加(体験を話すなど)を進めてほしい。	包含・賛同
92	素案全体	今年、勇気を出して酒害相談に行かせてもらいました。そこで入会しなくても相談できると知り、安心しました。私にとってはとても有意義だったので無料をもっとアピールしたら良いと思います。アルコール依存の人はほろ酔いで運転しているかもしれないのと、個別にチェックを使用することはできないのかな?	参考
93	第1章	ワーカーホリックは依存症ではないのですか	その他

番号	意見の内容	意見	対応分類
94	第1章	ワーカーホリックは含まれないのですか	包含・賛同
95	第1章	ワーカーホリックも依存の一つとして考えられませんか	包含・賛同
96	第1章	計画の期間について、なぜ5年間なのですか？この病気は”完治”しない、継続的な治療が必要と学んでいます。したがって、5年というのはどうかと。	その他
97	第1章	ゴールデンウィークや土日祝日など、市庁舎の3階から様々時間帯に多くの職員が市庁舎の3階のゲートから入っています。仕事依存症ですか。仕事が多くて終わらないのですが。仕事依存症は対策の除外でさか。仕事依存症も対策が必要ではありませんか。ゴールデンウィークや土日祝日など、市庁舎の3階から様々時間帯に多くの職員が市庁舎の3階のゲートから入っている職員の労働時間を正確に把握して残業代金を支払っていますか。未払い賃金が発生していませんか。調査は行わないですか。	その他
98	第1章	ゴールデンウィークや土日祝日など、様々時間帯に多くの職員が市庁舎の3階のゲートから入っています。仕事依存症ですか。仕事が多くて終わらないのですが。仕事依存症は対策の除外でさか。仕事依存症も対策が必要ではありませんか。ゴールデンウィークや土日祝日など、様々時間帯に多くの職員が市庁舎の3階のゲートから入っている職員の労働時間を正確に把握して残業代金を支払っていますか。未払い賃金が発生していませんか。調査は行わないですか。	その他
99	第1章	土日祝日や大型連休など、様々時間帯に多くの職員が市庁舎の3階のゲートから入っています。仕事依存症ですか。仕事が多くて終わらないのですか。仕事依存症は対策の除外ですか。仕事依存症も対策が必要ではありませんか。土日祝日や大型連休など、様々時間帯に多くの職員が市庁舎の3階のゲートから入っている職員の労働時間を正確に把握して残業代金を支払っていますか。未払い賃金が発生していませんか。調査は行わないですか。	その他
100	第1章	第1期計画では、計画の趣旨に「依存症に関する支援の方向性を打ち出し、関係者と共有することで包括的な支援の提供を目指す」と記載されていましたが、今回の計画では記載箇所をみつけることができませんでした。二次支援・三次支援の取組一覧を見ると、支援者へのボリュームが圧倒的に多いので、方向性は変わっていないように感じます。計画の趣旨が変わっていないのであれば、どこかに「支援に関する方向性を整理し～」ということがわかる記載があるとよいのではないかと思いました。	反映
101	第1章	仕事依存症の人には支援も対策もされないのですか。本支援計画に仕事依存症の人気が含まれない理由を教えてください。	その他
102	第1章	仕事依存症の人もいらっしゃると思いますが、対象外ですか。見て見ぬふりですか。仕事依存症だと思われる人には何も支援も対策もしないのですか。	その他
103	第1章	成人年齢の引下げにより18歳からクレジットカードを作ることができるようになりました。クレジットカードは実際に現金を使っている感覚も薄くて、オンラインギャンブルの若年齢化が問題視される要因の1つになっているように思います。	その他
104	第1章	仕事依存症の人もいらっしゃると思います。仕事依存症の人は存在すら無いものにされているのですか。見て見ぬふりですか。仕事依存症だと思われる人は、存在しないと思っているのですか。	その他
105	第1章	16ページのコラム「依存症における男女の違いについて」では、女性の依存症の背景にDV被害や性被害の影響があると考えられること、アルコール依存症では男性に比べ重複障害が多いこと(摂食障害など)を記載してください。また、LGBTQ+は社会的排除・トラウマ・孤立の影響で依存症リスクが高まることなども記載をお願いします。	参考
106	第1章	引用:(p11)第1章 5 計画で取り扱う依存対象 図表 1-4:本計画の対象とする依存症 WHOの国際疾病分類では、「ゲームする時間をコントロールできない、他の生活上の関心事や日常の活動よりゲームを優先するといった症状が1年以上続く(症状が重い場合は1年以内でも該当)」とされる 意見:図表中で用いられている「国際疾病分類」という表現について意見する。正式には世界保健機関(WHO)による International Classification of Diseases and related health problems という名称が広く用いられている。(p6)図表 1-1:本計画における用語の定義内の「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第(11回改訂版)(ICD-11)」という訳語が適切であると考えられる。よって、図表1-4での記載を「疾病及び関連保健問題の国際統計分類(第11回改訂版)(ICD-11)において～」という形に統一して修正すべきである。この修正により、国際的に整合性のある用語を公共文書において用いるという観点からも、理解の促進・誤解回避につながると考える。	反映

番号	意見の内容	意見	対応分類
107	第1章	ギャンブル依存症に対しての対策、支援の強化をお願いしたいです。	包含・賛同
108	第1章	違法のオンラインギャンブルに子供達がゲーム感覚で手を出せる現状。子供の未発達の脳に依存症になる要素が強くあること。そして、違法のために、児童相談所や逮捕などで未来を奪われてしまう事をとても懸念しております。子供達が簡単に手を出せるようなオンラインシステムに対して本来子供を守り育てていく大人たちの責任ではないかと考えています。早急な対策として、違法なサイトへのブロッキングシステムの確立が重要であり、これ以上被害者を生まない社会を作っていくなければならないと考えています。こうした対策を是非お願いしたいです。	その他
109	第1章	病気の正しい理解が大切 家族のグループなど、正しい理解さらに勉強している 家族の会などより知る事も大事だと思います。	包含・賛同
110	第1章	法律や計画を立てても罰則を設けない限り抑止にはなりません 市町村だけでは限界がありますがまずは低年齢化する依存症に対して予防教育の拡充(小学校から大学まで)と市内の保健センターなどの相談窓口と各依存症当事者会、家族会そして医療に繋げるフロントラインの確立が急務と考えます 絵に描いた餅のならぬようにどうぞよろしくお願いいいたします	包含・賛同
111	第2章	2章2の③についてP2の③専門医療をはじめとして…専門と出してあっても”アルコール依存”と目に見えないギャンブル依存などは、カゼと腹痛程にちがうと思っています。なのでそこをもっと別けて下さい。	参考
112	第2章	依存症に関する相談は、区役所の高齢・障害支援課でも受けると思われる。その際、精神保健担当の相談員は、専門的な支援者へのつなぎのみならず、相談を受けることを考えると、「依存症対策の状況」に区役所を入れてもよいのではないかと思う。	反映
113	第2章	P38について、第1期計画ではこころの健康相談センターでの取組の他、区福祉保健センター精神保健福祉相談の取組が入っていました。素案P61の図には機能が残っているように記載されているので、区の取組実績についても掲載するとよいのではないかでしょうか。	反映
114	第2章	「図表2-24:子育てをしていて感じている困りごと」について、困りごととして2番目に多いのが「子どものネット・ゲームとのつき合い方」、3番目は「子どものしきり方・しつけ」となっていました。依存症対策で直接支援するところではないかもしれませんですが、「しきり方・しつけがわからず、結果として親子でゲーム等のルールも作れず守れない」という状況に陥っているのではないかでしょうか。子どもへの対策だけでなく、親への様々な啓発や支援が必要だと感じます。担当部署で具体的な方向性を示して、取り組んでいってほしいです。	包含・賛同
115	第2章	アルコール依存対応の医療機関73件、薬物依存対応の医療機関52件で、一般的に集団療法・個別療法・家族向け集団教育・コメディカル相談などが提供されていると記載されています。依存症専門機関以外の精神科で、診療以外に集団療法等まで実施しているところはあまりないように思いますが、最近増えたのでしょうか。	その他
116	第2章	ゲーム行動症として取り扱う範囲は、P11に記載されているようにかなり限定的だと思います。「やり過ぎだけど予防できる範囲と依存の違い」などの簡単なコラムを掲載していただくと、計画で扱うゲーム行動症がより伝わるのではないかでしょうか。	反映
117	第2章	(4)民間支援団体 イ 自助グループでは、市内の区社協や男女共同参画センターが、自助グループに対して無料で会場を提供していることを記載してはどうか。既存のグループに参加する以外にも、自分たちでグループをはじめる際に、どんな施設が会場として利用できるかの情報も役立つと考えます。	参考
118	第2章	差別や偏見による孤立等から、LGBTQの方は依存症になるリスクが高いと言われています。自身のプライベートな話も含めて、安心して相談等できる場所が少ないという現状があると思います。そういう方たちも気軽に相談等できるよう、依存症相談拠点でオンライン相談などを実施してほしいです。	参考
119	第2章	依存症対策についてぜひ今後も頑張っていただきたいと思います。神奈川は依存症を扱う病院が多い一方、施設との連携が進んでいません。今後もぜひ行政の活躍を期待しております。	包含・賛同
120	第2章	スマホの普及により、低年齢からスマホでのオンラインカジノやゲーム課金等が身近で問題になっています。本人や親もギャンブル依存症という自覚もない方が殆どだと思います。小学校や中学校で生徒や親向けの依存症教育をやって欲しいです。	包含・賛同
121	第2章	行政や医療機関へのアクセスが困難な多文化・多国籍の方に向けて、多言語での相談窓口の周知や相談対応等の実施について検討していただきたいです。	参考

番号	意見の内容	意見	対応分類
122	第2章	ギャンブル依存症に関してです。自助グループ等一覧に●●●に関しましては、最近は▲▲▲と連携をし毎月当事者会を開催しております。対象を家族のみではなく本人も対象と記入欲しいです。また、▲▲▲の当事者支援部も本人向けの支援を行っております。こちらも一覧に入れていきたいです。	反映
123	第2章	近年は小学生でもオンラインカジノをしているなど報道があります。若い世代からの予防教育が必要と痛感しております。●●●や▲▲▲では予防教育に力を入れており、依存症当事者や家族を講師に派遣することができます。予防教育を実施する際は是非とも連携をよろしくお願いします。	参考
124	第2章	相談件数について、アルコールが最も多く数値として出ているが、それは分かりやすく身体への影響が出て相談に行きやすいから、というのも背景にあると思います。ギャンブルに関しては近年のオンライン化や、いきすぎた広告などにより、圧倒的に民間団体への相談件数は増え、問題も非常に深刻化しているが、このグラフには大して相談件数が増えていないように見受けられます。それはつまり、相談すべき人が相談にこれていらない実情があるのではないかでしょうか。ギャンブル依存症に対する偏見の意識、怠惰な人がなるもの、など、「病気」であるという認識がないままに、家庭の中で問題を抱えてしまうケースが非常に多いです。そして、問題が深刻化し、自死に至ったり犯罪を犯し、中には他殺まで至ってしまうケースもあります。よって、もっとギャンブル依存症の啓発に市としても特に力を入れ、予算を増やすをもらいたいです。加えて、小学生でもオンラインカジノをやっていたニュースがありましたように、若年層に対するギャンブル依存症の予防教育は今後必須になってきます。ギャンブル産業側は、若者をターゲットにし広告宣伝をどんどん盛り上げていますが、それはギャンブル依存症者を増やし、働き盛り・子育て世代の若者が産業側の喰い物にされているのです。若いうちにギャンブルを始めた人ほど、依存症になるリスクが高いことは統計でも出ています。ギャンブルを推し進める活動ばかりが盛んで、依存症になってしまった人を救うための活動は全く足りていません。非常にアンバランスです。 ・ギャンブル依存症の予防教育を民間団体と協力して行うこと ・依存症啓発に対する予算を増やすこと 上記2点を私からの意見として、挙げさせていただきます。また、民間団体と協力して、と記載した理由につきましては当事者こそが問題の本質を最も理解し、綺麗事ではなく本当の病気の怖さ、恐ろしさ、そして苦悩をありのままにリアルお伝えすることができ、説得力が全く違います。医療や行政も、もちろん依存症支援にはとっても必要になります。しかし、それぞれに得意な分野があると思っています。民間団体は当事者支援の経験数が圧倒的です。そこをうまく利用して欲しいと思っています。	参考
125	第2章	現状の依存症支援に関する連携は、医療・福祉関係者が中心であるため、医療・福祉以外の分野にも広げていくことが重要であるため、民間支援団体との連携機会を増やしていくをめざしてます。また、民間支援団体への活動資金の助成も検討していただきたいと思います。	包含・賛同
126	第2章	「支援者による動機付け」は大切なメッセージだと思いますが、普段から依存症支援に携わっていない人には伝わりにくいのではないかでしょうか。「本人の中にある変わったい気持ちを引き出す動機付け」など、わかりやすく記載になるよう検討していただきたいです。	反映
127	第2章	ギャンブル依存症に関する意見。市内での公営ギャンブル広告の削減、中止を求めます。	その他
128	第2章	違法オンラインカジノの啓発の強化。違法であることを市民にあらゆる市の媒体を用いて広報していただきたいです。	反映
129	第2章	ギャンブル依存症はWHOの認めている脳の病気であることを市民に周知、回復できること、家族会、自助グループの存在を広報。市職員の方自身が学ぶ機会を作ってください。	包含・賛同
130	第2章	現在、依存症の若年化が深刻。小中学校の先生、子ども達への予防教育の実施、定期化で、日本の各自治体の先陣を切ってください!	参考
131	第2章	大変よくできた計画素案と考えます。ただし、冊子版P47の表に家族自助グループ●●●が載っていないのは遺憾です。ウェブで調べていただければ出てきますので、追記していただきたいと思います。	反映

番号	意見の内容	意見	対応分類
132	第2章	他の自治体と比較して横浜市内には社会資源が多くあるとのことですが、かなり地域差があるように思います。高齢や障害等の理由で遠方まで受診・通所等できない人に向けて、地域偏在を補うような取組を盛り込んでほしいです。行政・家族・回復施設の当事者スタッフなどでチームを組んで、出張による研修・事例検討・個別相談等を検討していただきたいです。	参考
133	第3章	成年だけでなく、こどもや若者を対象にした施策に時代に即した内容だと思いました。未成年時に依存することや経験することが、その後のより深刻な依存行動に発展することがあるので、ここはとても大切なアプローチだと感じます。また、社会への偏見を取り除く活動は、病気である=治療や回復が求められるもの、として認識してもらうことにより、今現在もしくは今後治療や回復に取り組む方々が社会の中で生活していくやすくなると思うので、その点は学校教育段階から変えていけると良いと感じました。	包含・賛同
134	第3章	第2期支援計画の内容に沿って是非推進をより計っていただきたい。特に第3章の依存症に対する偏見や誤解解消にむけた普及啓発は(啓蒙も)とても大切なものであると思われこれをさらに推進していただきたい。	包含・賛同
135	第3章	一次支援の対象を年齢別に分け、二次・三次支援を属性別に分けたのがとても良いと感じました。全体的にとてもよく整理され読みやすかったです(概要版)。やはり若年層への対策がとりわけ大切なのかな、と。医療・福祉以外の分野は教育ですかね?	包含・賛同
136	第3章	依存症は何かしらの生きづらさにより、何かに依存しないと生きられない状態といえるが、依存症の人のことを「意志が弱い」と答える人の割合が多く、依存症のことを本当の意味で理解しているとは言えない状態である。このため、依存症に対する誤解や偏見が解消されるような、踏み込んだ普及啓発活動が必要である。	包含・賛同
137	第3章	中高年の働く世代の記載はありますが、高齢者への取組の記載がありません。ケアプラザ等の職員が研修等を実施できるよう、飲酒チェックや家族向け講座などの研修資材を作成してもよいのではないかと思います。	参考
138	第3章	こどもや若者が気軽に悩みを打ち明ける環境の整備として、具体的にどのようなことを想定しているのでしょうか。現状では、勇気を出して相談した結果、周囲の大人に受け止めるスキルがなく、かえって悪化させてしまうことも多々あるように感じます。受け止める周囲の大人への支援や啓発について、もっと具体的な内容を盛り込んでいただきたいです。ご検討よろしくお願ひ致します。	包含・賛同
139	第3章	取組が若年層に偏り過ぎないよう、他世代向けや従来の集団支援になじめない重複障害の方など個別対応が必要な方への新たな取組についても、第2期計画の中で提案していただきたいです。	包含・賛同
140	第3章	わたしの息子は、精神疾患とギャンブル依存症を併せ持つ重複障害です。さらに市販薬依存の問題も抱えています。若者の市販薬依存が蔓延し、低年齢化していることに危機感を覚えます。さらにスマホを所持する年齢が下がっていることから、早ければ小学生からの予防教育が必要だと考えます。民間の力では限りがあります。行政として、予防教育に早急に取り組んでいただきたい、息子の問題で苦しんできた経験のある親として切に願います。	包含・賛同
141	第3章	ダメ。ゼッタイ。にかわるインパクトがあつて正しい理解を促すキャッチフレーズがあるとよいと思います。	参考
142	第3章	市販薬の依存問題では、薬剤師の方とも連携した取組ができたらよいと思います。	参考
143	第3章	重点施策1の施策の方向性について、若年層の生きづらさを支援するという表現はおかしいので変えた方がいいと思う。65ページ以降の各取組について通し番号があると見やすいのではないか。	反映
144	第3章	第2期で数値目標を設定したことは、取組が見える化されてよいと思います。ぜひ、依存症相談拠点の取組だけでなく、他部署の取組も数値目標に盛り込んでいただき、計画全体の取組成果を見える化していただきたい。	参考
145	第4章	ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、働く世代のストレス緩和や依存症予防、健康増進などのためには、サービス残業や残業代金未払い、様々な場長などからのハラスメントなどは決して発生してはならない。横浜市からサービス残業の根絶、残業代金の根絶を宣言し覚悟を示す必要があると思います。ストレス緩和には様々なハラスマントの根絶も必要です。場長にハラスマントをしている意識が無くてもハラスマントを受けていると実感している人も多いと思うし、周囲から見てハラスマントをしていると思うこともある。横浜市からハラスマントの根絶を宣言し覚悟を示す必要があると思います。	その他

番号	意見の内容	意見	対応分類
146	第4章	ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、働く世代のストレス緩和や依存症予防、健康増進などのためにには、サービス残業や残業代金未払いなどは決して発生していくはならない。横浜市からサービス残業の根絶、残業代金の根絶を宣言し覚悟を示す必要があると思います。ストレス緩和には様々なハラスメントの根絶も必要です。場長にハラスメントをしている意識が無くてもハラスメントを受けていると実感している人も多いと思うし、周囲から見てハラスメントをしていると思うこともある。横浜市からハラスメントの根絶を宣言し覚悟を示す必要があると思います。	その他
147	第4章	ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、働く世代のストレス緩和や依存症予防、健康増進などのためにには、サービス残業や残業代金未払いなどは決して発生していくはならない。横浜市からサービス残業の根絶、残業代金の根絶を宣言し覚悟を示す必要があると思います。	その他
148	第4章	ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、働く世代のストレス緩和や依存症予防、健康増進などを支援するのでしたら、長時間労働が問題となっている路線バスの運転手の残業時間を無くしてください。路線バスの残業時間を無くすることは安全にも寄与します。路線バスの運転手の残業時間の上限が年間960時間なんて多すぎます。事故を起こして当たり前の状態だと思います。対策をしていないことにも大きな問題があるとしか言えません。ストレス緩和のためにもカスタマーハラスメントは大切だと思いますが、横浜市営バスは他のバス会社が何年も前に作っているにも関わらず未だに作っていません。バスの運転手のストレス緩和のことなど全く考えていないのですか。これ以上路線バスが人員不足で減便されないためにもカスタマーハラスメントを一刻も早く作る必要があると思いませんか。カスタマーハラスメント対策を作っていないことは不作為責任があるのでないですか。著しく遅い対応では不作為責任を問う必要があると思います。	その他
149	第4章	ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、働く世代のストレス緩和や依存症予防、健康増進などを支援するのでしたら、長時間労働が問題となっている路線バスの運転手の残業時間を無くしてください。路線バスの残業時間を無くすることは安全にも寄与します。路線バスの運転手の残業時間の上限が年間960時間なんて多すぎます。事故を起こして当たり前の状態だと思います。対策をしていないことにも大きな問題があるとしか言えません。ストレス緩和のためにもカスタマーハラスメントは大切だと思いますが、横浜市営バスは他のバス会社が何年も前に作っているにも関わらず未だに作っていません。バスの運転手のストレス緩和のことなど全く考えていないのですか。カスタマーハラスメント対策を作っていないことは不作為責任があるのでないですか。著しく遅い対応では不作為責任を問う必要があると思います。バスの運転手は、ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、働く世代のストレス緩和や依存症予防、健康増進などを支援は対象外ですか。多くのバス運転手が退職して路線バスが減便になった根本原因がここにあるのではないですか。	その他
150	第4章	ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、働く世代のストレス緩和のためには、実質的にワーク・ライフ・バランスの推進が必要です。サービス残業で残業時間が少ないと見せかけるのは違法でありワーク・ライフ・バランスの推進ではありません。国は残業代金の未払いを調査して残業代金の未払いを支払ったとニュースで見た記憶があります。横浜市では残業代金未払いの調査をしたとはニュースで見た記憶がありません。ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、働く世代のストレス緩和を行うなら横浜市が自ら率先垂範して残業代金未払いを調査する必要があると思います。横浜市は職員数が少ないことをアピールするのではなく、サービス残業を職員にさせないこと、残業代金未払いを発生させないことを率先してアピールし本気度を示す必要があります。	その他
151	第4章	小5の息子がいます。家では電子機器を見守り設定などできるが、小学校でiPadを配布されているため、いつでもゲーム(アプリ、ネットから)ができてしまうため、永遠と夜遅くまでやってしまう。何を言っても言うことを聞けない。注意したりするとかんしゃくを起こす。少しADHD? ASDがある子で、注意もできない。(暴れてしまうため)。学校でiPadを使用するのはメリットもあるが依存を作っている原因でもある。このせいで宿題もできなくなっている。精神障害を持つ家庭のことも考えてほしい。	その他

番号	意見の内容	意見	対応分類
152	第4章	(2)について オンラインカジノは、神奈川県内で小学生からやっていたというニュースが報道されている。オンラインカジノの予防教育、ギャンブル依存症の正しい知識を学ぶのは、18歳未満にも必要不可欠。18歳未満も取り組むべきではないでしょうか。 (2)(3)について 予防教育では、依存症から回復した当事者や家族の生の声を聞くという機会や正しい知識を学ぶ場を、子ども達、若者、教員や教育委員会など教育に携わる人、保護者に提供できるようにしたい。出前授業、援助職向け勉強会、地域に向けた講演会、教員研修など。オンラインゲーム、ガチャはオンラインカジノ、オンラインギャンブルに親和性が高いです。保護者向けのチラシを作ってほしい。ぜひ、市内の小中学校にも配布してほしい。	包含・賛同
153	第4章	横浜市がまとめられた「ギャンブル等依存症対策計画」では、啓発物の作成やSNSによる情報発信など、幅広い世代に向けた普及啓発の方向性が示されており、重要な一步だと思います。	包含・賛同
154	第4章	依存症問題は単なる知識の不足だけでなく、偏見や孤立、そして「助けを求めづらい空気」に深く根ざした社会的課題でもあります。そのため、啓発物やSNS発信といった情報提供にとどまらず、市民一人ひとりが「自分ごと」として考えられるような積極的な活動が必要だと感じます。たとえば、○当事者や家族の「回復の声」を伝える動画・イベントの開催 ○学校や大学での対話型授業や講演 ○地域や企業と連携した「依存症予防週間」の設置など、共感と行動を生む取組みをぜひ進めていただきたいです。依存症は誰にでも起こりうる「病気」であり、支援と理解があれば回復できます。横浜市が、啓発の枠を超えて「つながり支える社会」を実現する先駆けとなることを心から期待しています。	包含・賛同
155	第4章	スマホは、犯罪やギャンブルのドアでもあります。スマホを持たせる前に、予防教育をしてほしいです。大人でも、そのことを知らない人、無関心な人、自分は大丈夫だと思っている人が多いです。予防教育の他にも、社会でもきちんと取り締まり、大事なこども達を守れる横浜市であってほしいと考えています。	包含・賛同
156	第4章	近年、若年層のギャンブル問題が多発しています。スマホひとつで、様々なギャンブルに簡単にアクセス出来る環境になっている事は、ギャンブル依存症になる人を増やしている事は否めません。子供の時からスマホに慣れ親しんでいて、家族にすら本人が何をやっているのかわからないのが現状です。気付いた時には多額のお金を使っていたり、借金をしていたという事実に周囲の人は驚き間違った対応をとってしまい悪化させてしまいます。本人も家族も本当に苦しみ、家庭の中で悲劇が起きる事もあるのです。ギャンブル依存症が脳の病気である事などの正しい知識をもっと周知してほしいと思います。学校などで、予防教育に力を入れていただければ将来苦しむ人を少なくしていくけると思います。	包含・賛同
157	第4章	神奈川県内で小学生からのオンラインカジノをしていたという報道に驚きました。未来ある18歳未満の子供たちにもギャンブル依存症の予防教育をして頂きたいです。	包含・賛同
158	第4章	4章4番について”共依存”的なおろしさもひろめてほしい。どうしたらよいかも。中高年は、子供、孫とかかわる年であり「病気の手だすけ」…お金を援助してしまう事悪化させる手助けをしがちです。その為、それは助けにならないことを熱く伝えて。	反映
159	第4章	こども関連の支援者への普及啓発”が新たな取組として挙げられているのはとても良いことだと思います。それに加えて、”子育て中の母親”と関わる支援者との連携も必要なのではないかと感じています。依存症病棟や回復施設には、子育てのストレス軽減のため、飲酒やギャンブルに依存するようになる女性も少なくありません。早い段階で支援を受けられるようになることで子供たちへの影響も少なくなるのではないかと思います。ご検討よろしくお願ひ致します。	参考
160	第4章	依存症への偏見は有名人等の時間の報道等でかえって進んでるようにも感じる。正しい知識を報道機関とも連携して普及啓発してほしい。	参考

番号	意見の内容	意見	対応分類
161	第4章	現状、『薬物乱用でこんなひどいことになる』という理解は広がっているが、『実際になつてしまつたらどうするか』の解像度が低い。【チェックリストの活用】・「自分も当てはまるかも」と思わせる構成が有効。・何気ない行動が依存症につながる可能性を示すことで、『自分とは無縁』という認識を変えるきっかけになる。【自覚がない当事者層へのアプローチ】・『依存症は日常の延長にある』という刷り込みが必要。…「スマホを手放せない?」「課金が月1万円超えたことある?」など、ドキッとする決まり文句を活用。・同世代の事例や意見を提示し、共感・理解を促進する。【自覚があるが、どうすればよいかわからない層へのアプローチ】・リアルな体験談を動画や事例で紹介。…『やめたいけどやめられない→匿名相談で救われた人』など、希望を持てるストーリーを提示。・QRコードで相談窓口への直リンクを設置し、行動につなげる。【当事者の周囲へのアプローチ】・タブー対応を避けるため、『NG対応→OK対応』の比較動画を作成。例)NG「なんでやめられないの?」→OK「一緒に相談してみよう」。	包含・賛同
162	第4章	他都市で中学校の職員をしているが、薬物乱用防止などの研修会は教職員向けではなく、保護者向けに行うべきだと感じる。実際に薬物などを手にするのに使うツールはスマートフォンなどが多く、学校の域を出ている。それらを買い与え、使用させる保護者に危険性などを周知すべき。講演会の会場を学校などにし、生徒と保護者が一緒に聴けると良い。	包含・賛同
163	第4章	ギャンブル依存症の問題が深刻化しています。先日、神奈川県で小学6年生がオンラインカジノで約700万円を賭けていた事件がありました。子どもや若者を守るため、早期発見と予防の体制を強化してください。	包含・賛同
164	第4章	当事者や家族が安心して相談できる窓口の充実と周知、家族会や自助グループへの継続的な支援をお願いします。	反映
165	第4章	医療・福祉の現場でも依存症対応の研修を拡充し、専門医療機関を増やしてください。	参考
166	第4章	当事者・家族・行政・専門家が協働できる仕組みを設け、当事者や家族の声が施策に反映されるようにしてください。誰もが安心して暮らせる横浜を願います。ギャンブル依存症は誰でもなる病気だけど正しい知識と対応で治ります。	包含・賛同
167	第4章	依存症は、家族も巻き込みます。本人はなかなか相談等につながらないので、先に家族から相談することも多いです。素案にも記載されているように、家族が早期に問題に気付いて支援等につながることが大切だと思っています。素案では簡単な説明のみとなっていますが、「なぜ家族にも支援や回復が必要なのか」を家族や支援者が理解できるよう、もう少し具体的な説明を盛り込んでいただきたいです。ご検討よろしくお願ひ致します。	反映
168	第4章	自助グループは依存症の回復には非常に重要な社会資源だと思うが、初めて知る人(本人家族問わず)にとっては抵抗感が強くハードルが高い場合が多い。もったいないので、気軽に繋がれるよう、行政が橋渡しの役割を担ってほしい。	反映
169	第4章	依存症当事者や家族へのサポートを行っている施設や自助グループ等は、時代の変化等に伴い、高齢化や人手不足の問題に直面している。それぞれの機関や団体の中だけで抱え込まず、必要時、意見交換や協力体制が取れるよう、行政も含めた連携をより強めていってほしいと思う。	包含・賛同
170	第4章	一次支援における普及啓発活動において、行政の担当課による取組だけではなく、民間支援団体等と連携した、官民協同による普及啓発活動が必要ではないか。	反映
171	第4章	近年依存症の幅は大変広がってきており、若年層、子供も増えてきている。依存症となる前に学校等での疾患教育を行えれば大変効果はあると思います。	包含・賛同
172	第4章	親となる世代への教育または正しい情報の取得も必須ではないかと思います。依存症となる原因について、成育歴が深く関与していることを考えると、子育て世代への教育も必須だと思います。人とのかかわりが薄くなっているので、個人の耐性も低くなっている印象があり今後も依存症は物質を変えて増加していくのではないかと危惧しています	参考
173	第4章	ワーカーホリックの人は依存症ですか。横浜市ではどの様に正確に残業代金を支払っていますか。残業代金未払いが発生していないか、国や他都市同様に調査して公表してください。ワーカーホリックが依存症でしたら、横浜市ではどの様な対策をされていますか。	その他
174	第4章	仕事依存症の人には支援も対策もされないのですか。本支援計画に仕事依存症の人に対する支援などが無い理由を教えてください。	その他

番号	意見の内容	意見	対応分類
175	第4章	私の家族がギャンブル依存症です。2年前にギャンブル依存症支援の民間団体に繋がった時から比べて依存者数の増加に驚いていると同時に、その低年齢化にとても不安を感じています。横浜市が依存症対策に取り組んでいるのはわかりますが、もっとスピード感をもって対処して頂きたいです。スマホひとつで違法ギャンブルができるてしまう、ギャンブル産業は、依存するように巧みにプログラムしたものを流し続けていると思うと恐ろしいです。今1番希望していること・ギャンブル依存症の民間支援団体への金銭的支援・ギャンブル依存症の予防教育・横浜市によるギャンブル依存症の啓発、広報の継続	包含・賛同
176	第4章	ギャンブル・ゲーム依存は低年齢化しています。小学生がゲームをする延長でオンラインギャンブルを始めてしまう危険性は多分にあります。こども達への啓発はもちろんですが、親達は誰でも依存してしまう可能性があること、もし依存してしまっても正しい対応があるということを知ってほしいと思います。また、様々な人が依存症のことを正しく理解することで、社会全体が回復しようとする人に対して偏見をもつことがなくなり、生きやすい世の中になるのではないかと思います。横浜市の関係部署で様々な取り組みがされていて、これから益々市民に向けて啓発を広めて行くことを願います。	包含・賛同
177	第4章	子ども達、若者への依存症教育はとても重要で、早い時期から取り組むべきだと思います。スマホは依存症の入口にもなっているのが現状です。いまやスマホは小学生から使用し、生活の必要品になっている家庭も多いことでしょう。スマホの利用について学習した上で、さらに依存症についての授業を実施してほしいです。ゲーム依存やギャンブル依存の当事者の出張授業も可能ならあっても良いと思います。	参考
178	第4章	(2)(3)こどもや若者についての予防教育の拡充、充実を希望します。横浜市内の小学生から大学生を対象に早い時期から直接本人への予防教育を必須にしていただきたいと考えます。現在、小さな子供でも依存症につながるものに接することが可能な状況のため、事前予防の重要性を感じているためです。	参考
179	第4章	依存症単独での啓発だけでなく、災害や自殺、青少年向けなど他分野のイベント等とコラボしたり、地域イベントに依存症ブースを設置するなどして、啓発の機会や幅を広げていかれるといいのではないかと感じました。	参考
180	第4章	公営ギャンブルがアルコール飲料会社が人気タレントを使用して大きくコマーシャルを打っているのに対し、依存症対策の規模は小さく、認知度は低いと感じます。また、すでに依存症になった人々をサポートする医療機関、回復施設などは十分ではない(施設数も人材も)と感じます。この点についてもっと具体的な解決策を望みます。	参考
181	第4章	啓発活動を「大学や地域へ」行っていくとの記載です。スマホから簡単にオンラインカジノやスポーツベット等のギャンブルへアクセスできる環境においては中学生、高校生でも繋がってしまう可能性があります。高校での啓発活動も埼玉県の高校で実施されており、神奈川県での開催も希望します。	参考
182	第4章	最近は若者の依存症も増えていると報道されています。横浜には独自の「ユースプラザ」という15才～39才のための施設も補助事業で運営されているので、そのような施設に通う若者へも予防や啓発が地域支援計画に取り入れられていくべきではないかと思います。様々な生きづらさを抱えた若者への依存症対策が進むことを期待しています。	包含・賛同
183	第4章	神奈川県内で小学生からオンラインカジノをやっていた報道がありました。小中学生にもギャンブル依存症の予防教育してほしいです。ダメゼッタイのような否定的なものではなく、依存症は誰でもなりうる病気、回復できる、相談できるという内容のものであってほしいです。教師への予防教育も併せて実施が必要です。	参考
184	第4章	若者に、向けた啓発活動の強化	包含・賛同
185	第4章	一次支援から三次支援、若者から高齢者まで細かな取り組みが予防教育、対策に大きく繋がっていきギャンブル依存症者が減ること、家族の対応の学びになると思います。素晴らしいです。	包含・賛同
186	第4章	子ども、若者、中高年といった世代、本人、支援者、家族といった立場など、各フェーズに分かれた細かい対応計画が、とても具体的で、今後の効果に期待を感じました。達成状況の点検、見直しがしっかり行われることで、令和12年度には状況が少しでも良い方向に向かって欲しいです。全て希望の持てる内容でしたが、山下埠頭にオンラインカジノの関連施設が計画されているという噂との違和感を感じました。	包含・賛同

番号	意見の内容	意見	対応分類
187	第4章	二次支援・三次支援においては、支援者のスキルアップがかかせないと思います。支援者向けガイドラインの改訂も必要だと思いますが、身近な支援者がアセスメント力や依存の度合い等の評価、動機付けを高めるような関わりができるよう、実践的な研修体系を構築することを盛り込んでいただきたいです。	反映
188	第4章	回復支援 専門医療機関の地域偏在を是正するため、オンライン治療や相談体制の公的支援を強化すべき。	参考
189	第4章	ギャンブル収益の一部を、治療支援や家族会活動の助成に明確に充当することを盛り込むべき。依存が疑われる顧客に対し、事業者が一時的な利用停止を勧告できる制度を導入すべき。	その他
190	第4章	依存症の人が治療に向かうためには、早期発見が必要だと思います。そのためには、本人や家族だけで抱え込みず、相談できる場所と地域住民の理解に基づく気づきが必要です。普及啓発活動は、パネル展等すでに実施しているようですが、相談しやすい環境や風土、依存症の正しい理解を地域に浸透させる必要があると思います。普及啓発活動の実施においては、依存症の理解を深く浸透させる取組が必要だと思います。	包含・賛同
191	第4章	普及啓発活動の実施においては、担当部署だけではなく、行政全体で依存症啓発に取組む行動が必要だと思います。	反映
192	第4章	全ての人に分かりやすく、ギャンブル依存症が脳の病気であって、病気だからこそ、治療すれば回復する、正しい対応が知れ渡ってないから犯罪、自殺まで進んでしまうことを啓発して欲しいです。	参考
193	第4章	若年層以外の課題として、高齢者層の「処方薬依存や社会的孤立からくるアルコール依存」も深刻です。「医療・介護・生活支援との統合や地域包括ケアとの連携」などについて、具体的な取組を盛り込んでほしいです。	参考
194	第4章	近年未成年のギャンブル問題が深刻化しています。小学校での予防教育を義務化していただきたいです。	参考
195	第4章	パブリックコメントや限られた参加者のみで開催する会議での意見集約以外に、会議に参画していない当事者・家族・支援者の意見を定期的に聞く機会を設けて、点検・評価や見直し・改善に反映できる仕組みを作っていただきたいです。	参考
196	第4章	スマホからアクセス可能なギャンブルの低年齢化に伴い、ゲームだけではなく、ゲーム課金からのギャンブル移行があると考えられる。小、中、高等学校の保健教育でアルコールのみではなく、薬物、ギャンブル、ゲームについても授業を行って欲しい。	その他
197	第4章	1、一次支援(予防・普及啓発)に係る取り組み (1)について:ギャンブル依存症は、ご家族が最初に異常に気づき、相談に至るケースが多くあります。●●●は、当事者家族への専門的な支援ノウハウと、依存症の現実を伝える切実なメッセージを持っています。毎年5月の啓発週間に合わせて、セミナーを行ったりチラシ・グッズの配布なども行っているので、こうしたキャンペーンを共同で実施することで、市民への早期の気づきと支援への橋渡しを強化出来たら良いのではないかでしょうか。 (2)(3)について:予防教育において、単に依存症についての知識を伝えるだけでなく、依存症から回復途上にある若い当事者や、依存症の家族を持つ人のリアルな経験を伝えることも効果があると思います。彼らが経験した苦しみと、そこからどのように回復していくことが出来たのかというストーリーを伝えるプログラムを導入することで、もし依存症になってしまったとしても解決策があるのだ、と知ってもらうことも大切だと考えます。	参考
198	第4章	様々な取組や支援の満足度を図ることは難しいかもしれません、利用者アンケートなどを実施して、効果測定できるとよいと思います。	包含・賛同

番号	意見の内容	意見	対応分類
199	第4章	私の息子(29歳)はギャンブル依存症です。ビギナーラックで万馬券となったことがきっかけで発症しました。競馬場に子供の時から気軽に行ける環境、身内も競馬を楽しんでいたことがギャンブルに対するハードルを下げていました。いまやスマホが賭博場です。連續性・頻回という環境で、職業を問わず誰でもギャンブル依存症を発症してしまうことを学びました。ギャンブル依存症は本人の意志と根性では治りません。そして「自分はそんな病気ではない。」という否認の病気でもあります。WHOでも認められているれっきとした進行性の病気で、家族が対応を誤れば悪化してしまい、横領・闇バイトなどの犯罪、自死につながってしまいます。家族も不安と心配でとても苦しいです。しかし「●●●会」や「●●●家族の会」「●●●(自助グループ)」につながることで、正しい知識を学び、「回復できる病気であること」ことを知り、希望の光がみえました。昨今、どうしてこれほどまでに日本の若者が闇バイトに走ってしまうほどお金がないのか、立派は職業についている方が職場のお金を横領してしまうのか、私はそのような数々の事件の疑問が解けた気がします。世の中全体で正しい知識をもち、次世代を担う若者が、公営競技を含めたギャンブル事業者に狙い撃ちにされている由々しき事態に最優先で実効性のある対策を講じていただきたいです。よろしくお願ひいたします。	参考
200	第4章	相談や自助グループなどの利用はハードルが高いと思います。身近な支援者等と一緒に、気軽に利用できるような仕掛けが作れるとよいのではないかでしょうか。	反映
201	第4章	非常に細かく取りくまれているのですが、自分の依存症には、残念ながら2度の入院が有効でした。断酒歴10年です。	包含・賛同
202	第5章	横浜市職員で依存症に陥り、自ら回復を経験された方がおられると思います。こころの健康相談センターの担当スタッフとして採用配置してください。	その他
203	第5章	依存症対策は、障害のある人を地域で支える基盤整備としての「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」で掲げる、相談できる仕組みや障害理解促進の仕組み等、共通する部分が多いと思います。依存症計画において、にも包括の取組との連携を視野に入れることが必要だと思います。	反映
204	第5章	ギャンブル依存症、自助グループ、家族会の活動に関わっております。依存症に関する啓発、支援活動では「手弁当」で行なっているのが現状です。又、依存症当事者の入寮施設の施設費も家族の経済的負担が大きいです。これらを踏まえて助成金、補助金等、切に願っております。	その他
205	その他	■計画本文P28 図表2-17:医療機関を受診した市内在住のギャンブル等～患者数 →読んだ当初は女性のデータがないのは何故かと感じました。	反映
206	その他	■計画本文P37 図表2-28:依存症に対する意識 ②多くの若者は、依存症の若い男女とデートしたがらない →こちらの質問内容と意図だけよくわかりませんでした。 他の質問は一般的な偏見等をもとに設定されているかと推察しますが、個人的には設定された選択肢の中からの回答は難しいと感じました。	参考
207	その他	■計画本文P60 図表3-4:計画の数値目標 アウトカム「依存症の問題に対処したいがどうすればよいかわからない」と答える人の割合 →アウトプットとして「貴市連携会議の年間参加機関数」を減らさないこととして設定されておりますが、ぱっと見てアウトカムの指標の達成に直接的につながるのかわかりにくいと思いました(これ以上機関を増やすことは難しいというのはあるかと存じますが…) 支援者等が継続的に情報共有を行うことで、結果的に依存症の問題に対処ができる人のすそ野を広げることにつなげるというご意図として理解いたしました。	包含・賛同
208	その他	早く計画を進めてほしい。	包含・賛同